

## 令和6年度（2024年度）第1回柏崎市食育推進会議 議事録

1 日 時 令和6年（2024年）10月17日（木）13：30～15：00

2 場 所 柏崎市元気館2階 会議室

3 出席者

(1) 委 員 阿部委員、石井委員、伊藤委員、今井委員、岡嶋委員、佐藤（歩）委員  
佐藤（博）委員、鈴木委員、高取委員、田村委員、山田委員 11人  
（五十音順）

※欠席委員：野村委員、前川委員

(2) 事務局 宮川福祉保健部長  
健康推進課：坪谷課長、金子課長代理、竹内係長、中村係長、金子主任、  
佐藤主任

4 会議概要

(1) 開会

(2) 委嘱状交付・委員紹介

(3) 福祉保健部長挨拶

(4) 会長・副会長選任

事務局案を提案し、会長に岡嶋委員、副会長に鈴木委員が選任された。

(5) 議事

- ・第3次食育推進計画の概要を説明
- ・令和5年度（2023年度）「第2回健康づくり推進会議」及び令和6年度（2024年度）「第1回健康づくり推進会議」、令和6年度（2024年度）「第1回歯科保健推進会議」を報告
- ・令和5年度（2023年度）と令和6年度（2024年度）の食育に関する取組について説明
- ・重点課題「朝食摂取」「肥満予防」に関する令和3年度（2021年度）からの取組状況を説明し、意見交換を実施
- ・柏崎市第四次食育推進計画の策定について説明

議事の概要は以下のとおり

令和5年度（2023年度）と令和6年度（2024年度）の食育に関する取組について説明

<資料3、資料4、資料5>

重点課題「朝食摂取」「肥満予防」に関する令和3年度（2021年度）からの取組状況を説明し、意見交換を実施

<資料6、資料7>

## 第四次食育推進計画の策定について説明

### <資料 8>

○令和 5 年度（2023 年度）と令和 6 年度（2024 年度）の食育に関する取組について  
事務局説明

議 長	事務局からの説明について、御質問や御意見はいかがか。
A 委員	健康づくり支援店の増加については、評価不能という取り扱いで よいか。健康づくり支援店制度が終了したので、次期計画策定時 は別の目標になることでよいか。
事 務 局	そのとおりである。 次期計画策定で目標項目について検討していく。
A 委員	資料 3 の令和 5 年度取組報告で、保育課の保育園給食は、全保育 園で非常時給食として災害を想定した献立を作成し、給食を提供 したと記載があるので、基本方針の食糧備蓄にも該当するのでは ないか。
事 務 局	該当する。

○重点課題「朝食摂取」「肥満予防」に関する令和 3 年度（2021 年度）からの取組状況  
について事務局説明

議 長	事務局から重点課題「朝食摂取」「肥満予防」に関するこれまでの 取組状況や来年度の方向性について説明があった。御意見や御 提案などをいただきたい。
B 委員	朝食摂取、肥満予防に関してかなりの取組がされているが、なか なか実績が出ていない。おそらく時間が相当かかると思う。朝食 摂取に関して 8 つの取組がある。次年度からさらに取組を追加し ていくのか、取組を見直していくのか方向性を伺いたい。 弊社は健康推進課と健康経営で連携している。企業には紙媒体を 提供する機会が多いが、従業員の方々が家庭でユーチューブや SNS を見る頻度は非常に高いと思う。SNS の活用状況、今後の 見通しも聞かせてほしい。 弊社で市内の企業に健康習慣アンケート調査を行った。十数社の 統計を見ると、「ふだん朝食を食べるか」という質問に対して、 「食べる」という回答が 74～83%程度で、今回の市民アンケー ト結果とほぼ一致している。「最初に野菜を摂取し、よく噛むこ とを意識しているか」は 40～50%で、食べ方をどう改善してい くかというところである。
事 務 局	基本的には現在の取組の継続で考えている。内容の見直しを考慮 しながら取組を進めていきたい。 SNS については、すすくネットに妊娠期の食生活、ホームペ ージに朝食に関する記事を掲載しているが、閲覧数はあまり多く ない状況である。QR コードで簡単レシピが見られるなど情報提 供しているが、閲覧数が伸びないのが課題である。

C 委員	私は小学3年と4年の子どもがいる。低学年の時には朝食を食べなかったが、少し大きくなって食べるようになった。アンケート結果で欠食割合が出ているが、簡単なレシピよりも、食べている人が実際にどのように工夫して食べているのか詳しく紹介されていると、家庭でも真似ができるのではないかと。
D 委員	4・5歳児アンケート結果で朝食を食べない理由は、親が用意しないのか、子どもが生活リズム的に食べられないのか、現状はどうかか。
E 委員	ほとんどの子どもが朝食を食べて登園する。食べてこない子どもは、生活リズムが夜遅く寝て朝起きられない状況で、起きてすぐ登園するという傾向があり、保護者と面談して改善できるようにしている。 保育園での取組について紹介する。 保育園給食は衛生面やアレルギー対応など食の安全を第一に考慮し、季節感のある食材を使って薄味で見た目にも食欲が出るよう工夫している。市の献立を使用し、毎月いい歯食育の日は噛み応えのある給食、えちごんのぱくもぐランチの日は学校給食との合同献立を実施している。各園では月ごとに行事食を取り入れ、手作りおやつにも力を入れている。 園児と育てた野菜を給食に入れることで、野菜が苦手でも食べられるようになる。調理体験を通して食材に関心を持ち、調理や食事の楽しさを知ることができる。子ども達の食育活動の様子をおたよりやホームページで保護者に知らせて、食の大切さを伝えている。特に園日よりでは定期的に、生活リズムについて啓発している。
D 委員	子どもが朝食を食べると体調が悪くなってしまう場合、これ以上頑張っても難しいと思った。今の話を聞くと、親の生活に合わせて食べられない子どもが多い。佐藤委員の意見のように、食べている人達の工夫を食べていない方にどう伝えるかという取組はされていると思うが、方向性を確認したかった。
事務局	4・5歳児アンケート結果で、朝食を食べない習慣があるお子さんは26人であった。食べない理由としては「食欲がない」42.3%、「食べる時間がない」15.4%で、やはり生活リズムが影響していると思われる。
F 委員	小中学生の欠食理由も、「時間がない」「朝起きられない」「食欲がない」が多い。保育園児にない理由として、自分は食べたいが親が用意してくれない家庭があるのが現状である。保護者に朝食を食べる習慣がないと準備をしない、子どもも食べないという家庭があり、指導が難しい。 小中学校において栄養教諭が行う朝食に関する取組としては、給食時間中や食育授業がある。学校としては、いきいきウィーク、健康アップ週間などの生活習慣改善の取組があり、早寝早起きやメディアの時間、朝食を食べたかななどのチェック項目がある。頑張っている取組む週間が全学校で年2回くらいあり、子どもだけではなく親の意識も変えていこうと取組が行われている。

---

中学校では保健委員会や給食委員会など、生徒からの啓発活動も行われている。「朝食を食べよう」の動画を作って給食時間に流すなど、生徒発信の取組をしている学校もある。朝食はプライベートな部分もあり、深く踏み込んだ指導が難しい。親の意識を変えるのが難しいため、親が準備してくれなくても子どもが自ら食べられるよう、冷蔵庫から出してすぐに食べられる物は何があるか、どんなことなら自分でできるかなどを考える授業を取り入れている。

---

G 委員 高校生に対して、昨年度は食育に何も取り組めていなかった。今回、栄養講話の話をもらい、良いきっかけになると思った。初めての取組になるので、生徒達の反応を見ながら次年度にできることを検討していきたい。

保健室に来室し、朝食を食べて来ない生徒は、ぎりぎりまで寝ていたいという生徒が多い。食べることよりも寝ることの方が大事だと思っている印象がある。

本校には菓子パンとグミ、チョコなどの軽食が売られている自動販売機があり、休み時間に購入して食べることが可能である。朝食を食べて来なくても、何とかなるという意識があると思う。朝食を食べると腹痛になる生徒も一定数いる。腹痛になるので食べられない、頑張ってもヨーグルトだけでいいかという相談もある。少しでも食べられるなら、体調が悪くならない程度で自分にちょうど良い量を見つけるよう話をしている。

昨年度の会議でも、保護者の食への関心も課題だという意見が出ていた。高校でも家庭を巻き込んで食に関する取組ができればいいと思っている。

---

H 委員 大人は朝食を食べることによって体にスイッチが入り、正しい働きをすることをSNSや健康番組からの発信で知っている。しかし、今はできないという現実になっているのではないか。スーパーでは、学校が始まる時期になると朝食メニューに使われる食材をピックアップして販売されており、小さい容器のお総菜は単価も安くて購入しやすい。時間帯によって安くなるとSDGsにもなり、食材も無駄にならない。一步踏み込んで、スーパーや他の事業所など食育に関わる関係機関と連携し、みんなで助け合いながら市民が健康になるにはどうしたらいいか考えていけるとよい。企業にも働きかけ、実際に上手くいった成功事例や工夫を提案する取組をお願いしたい。

困りごとへの対応や取組をしたいがどこと連携したらよいか分からない場合のつなぎ役を市をお願いしたい。

---

A 委員 からだがよろこぶデリは自然に健康になるための食環境整備として、3年程前から新潟県で取り組み始めた。少しずつ定着していると思う反面、御協力くださるスーパーの事情で少し制限される部分もあると感じる。

生活リズムに多様性がある時代である。大学の学食で朝食を提供する等の取組をしているように、食事だけを取り上げるのではなく、どのように生活リズムを整えるかを考えないと難しい。

---

---

市民アンケート結果は速報値でクロス集計をしていないが、朝は気分が悪くて食べられないのは、前日の夕食時間や起床時間が関連していると思う。夕食前後の間食についても、家族全員の生活リズムが夜型で夕食時間が遅いなら、子どもは帰宅して間食を取らないわけにいかない。遅い時間に夕食を取る人が寝るまでに間食をするのかなど、多面的に生活リズムを見ていかないと評価が難しいと思う。

朝食欠食は進学や就職がきっかけになる方もいる。妊婦の中には、妊娠して食べるようになるが、出産して育児の過程でまた食べなくなる方もいる。どの世代がターゲットなのかが悩ましい。今年度、大学生へ働きかけるなど、少しずつ取組が前進している。簡単に成果が出ないので、いろいろ取り組みながら複合的に対策をしていくことが大事である。昨年度の会議で事業所での啓発について意見が出ていたが、シフト勤務が多い中で、夜勤など職場環境に合わせた食事方法の提案など工夫されていると思った。

---

I 委員 歯科健診や健康教育の際にはお菓子だけが間食ではなく、おにぎりでもいと話している。おやつをだらだら食べていると歯にはよくないし、肥満の原因になる。時間を決めて食べるのが一番よいと伝えているが、仕事をしている保護者が多いので、子どもが自分で出してきたり飲んだりすることも多い。甘い物を食べ過ぎないようにするのであれば、ジュースやお菓子を買置きすぎない、子どもの目のつく所に置かないなどの工夫をしていただくよう伝えている。

---

J 委員 重点課題の朝食摂取、肥満予防に対して、事務局の健康推進課が関係機関と連携しながら、妊娠期から働き世代まで会議の意見を踏まえて取り組んできたのは素晴らしい。計画の終期が近づいているので評価しなければいけないが、この2つのテーマは国でもなかなか結果が出ていないので、どこも同じ課題を抱えている。朝食もデリケートな問題であることは驚いた。それでも子どもの力を信じて進めていただければ、将来の生活習慣病予防になる。学校への提案がある。阿部委員から健康アップ週間を年2回、全学校で実施しているという話があった。もし可能なら、健康アップ週間に肥満の問題や朝食欠食の要因になる項目を盛り込んでみてはどうか。身体活動量が少ない、メディアの時間が長い、睡眠時間が少ない、朝食欠食、早食い、おやつのルール決めがないなど、肥満の要因として分かっている。その中から柏崎市の肥満の要因と考えられる項目を選んで全学校共通に設定し、それぞれの学校の特性に応じて項目を追加できないか。これにより、なぜ肥満者割合が増加していくのか、この習慣が変わってきたので割合が改善してきたというモニタリングにも使えるので、とてもよい方法だと思う。

---

F 委員 子ども自身がチェック表に達成状況を○×△で記入し、週間が終わると保護者からの一言コメントをもらい、親子で共有できる。もう少しここを頑張れるといい、家族みんなでやろうと思ったなどのコメントがある。

---

J 委員	<p>子ども自身が自分の生活習慣をチェックし、親がそれを共有できるなら、それを使わない手はないと思う。親が朝食を食べないと子どもも食べない割合が多い、親が遅い時間に寝れば子どもも寝る時間が遅くなるのが分かっており、親の生活習慣が子どもの生活習慣に影響している。難しいかもしれないが、乗り越えないといけないところである。関係者と連携した取組として実施してみてはどうか。</p> <p>私は地産地消推進会議の委員も務めている。食育推進計画の基本方針2・3は地産地消推進計画が目指していることと同じである。しかし、地産地消推進会議に出席すると健康の話はあまり出てこない。食育推進会議には地産地消の話題が出てこない。庁内連携を進めていると聞くが、具体的にどのように進めているのか事務局に伺いたい。</p> <p>地産地消であれば、例えば収穫祭で重点課題の朝食摂取や肥満予防を伝える。ご飯と地元野菜の味噌汁でもよいなど提案できるなら、ぜひつながってほしい。</p> <p>資料4の目標値の進捗状況では地産地消に関する数値がない。また、農林水産課の取組は食育の重点に該当しておらず、ここ数年変わらないのが残念である。何かコラボする取組があってもよいのではないか。</p>
事務局	<p>食育推進計画の基本方針を3つ定めている。計画推進において、地産地消推進計画を所管する農林水産課と役割分担し、進捗状況を確認している。秋の収穫祭ではブースを設けて、今年度は食育や歯科に関するものの他、体の健康づくりを含めた啓発を予定している。各計画を関連させながら啓発を進めている。</p>
J 委員	<p>目標値の進捗状況で、地元の特産物を知っている人の増加や農林漁業体験をしたことのある市民の増加、地元の食材を優先して利用する人の増加に数値が入っていないのはなぜか。</p>
事務局	<p>数値が入っている項目は、いい歯・食育アンケートとして歯科と食育についてモニタリング調査を実施している。紙面の都合で優先して調査したい項目を選んでいる。数値が入っていない項目については、今年度実施した市民アンケート結果で最終評価を行うこととしたい。</p>
J 委員	<p>目標項目は、できれば毎年データが取れるものを入れた方がよい。5年後に調査したら全然改善されていなかったでは、対処のしようがないので、次期計画では検討してほしい。</p>

○第四次食育推進計画の策定について事務局説明

A 委員	<p>第四次食育推進計画と関連計画との一体的な策定は素晴らしい。しかし、食育推進会議と健康づくり推進会議、歯科保健推進会議とのつながりが見えてこない。この会議では食育部分だけを検討し、一体的に策定という部分は上位会議の健康づくり推進会議で調整していくのか。</p>
事務局	<p>第3次食育推進計画の最終評価、次期計画の計画案は次年度の食</p>

---

育推進会議で提案させていただく。計画全体となると、健康づくり推進会議を主軸として、各計画との評価なども合わせながら一体的に計画策定をしていく。それぞれの会議で御意見をいただき、食育推進会議をはじめ他の会議でも取りまとめた御意見を共有しながら進めさせていただきたい。

健康に関する4つの計画を一体的に策定するにあたっては、食育推進計画を健康増進計画の中に入れてしまうということではなく、一冊にして整合性を図りながら、章立てでの計画の在り方を検討している。推進会議においても、各計画の整合性を合わせながら協議を進めていきたい。来年度はいつもの計画策定と違う形になるが、御意見を頂戴したい。

---

議長 以上をもって議事を終了する。

---

(6) 閉会